

アムリタの淫濁 (試し書き) (【】は未定、もしくは微妙部分)

その尿道孔は、死闘の興奮で、今にも開き切りそうになっていた。

激しい運動により幾度も潰された赤い粘膜の縦坑が、やや楕円形に歪んだ入り口を、ぼつかり、と解放させ、疲労と緊張に昂ぶって荒々しく呼吸するかのよう息づかしている。その周辺部位は、持ち主である少女の着用した、過剰なまでにフィットしている^{インナー}下着一体フル・ボディスーツの股間と擦れ続けてきたことで、艶めかしく汗ばんだ膣前庭を、まるで性交の真つ最中であるかのようにさらけ出してしまっていた。

鶺鴒色の鮮烈な粘膜だ。陰阜の畝が、無理な機動や下半身の使い方の度に、^{マスタード・イエロー}暗めの黄色のボディスーツの鼠蹊部の間——そのデルタ地帯から胸部にかけてが、^{インナー}下着一体部分として、^{サフラン・イエロー}明るい黄色のレオタードを被せたように厚くなっている——と【太腿の動きで振れ合い、前屈開脚で衝突し、仰け反る圧力で圧潰される(過去形)】。それはまるで、割れかけのアケビの果実をパック詰めにして勢いよく振り回しているかのようなだった。汗と脂を潤滑油にして抉じ開けられた大陰唇、小陰唇が、若い血潮の滾る果肉の秘園を内側から押し出すようにし、スーツへ密着、グズツとディープ・キスをさせている。

そこに、侵犯者がある。

——ギチュ……。

奇怪な蚯蚓^{みみず}であった。

極彩色にキラキラと輝く、虹色の環形動物だ。つるりとした無毛の胴体を蠕動させ、透明だが毒々しい甘臭を放つ粘液を表皮から分泌させている。頭部からやや降った所には、体節が【どす黒く】変色して膨らんだ環帯が有り、それはチョーカーのように胴体を飾って、不気味なアクセントを付けていた。

——ズズツ、ギヌブ……ツ。

常軌を逸したことに、その蚯蚓は、スーツの材質を『泳いで』いた。

ナノマシンと、レアメタル製の金属繊維を織り込んだ、人類圏最高のコンバット・ボディスーツ。単体で宇宙空間での活動にすら耐え、如何なるウイルス・細菌の侵蝕をも許さない、文明の到達極致的な防御力を誇る、その生地は、まるで悪い冗談か何かのように、ズブプリ、と身を潜り込ませているのだった。

一番近い光景は、水っぽい泥に指を突き入れている所だろうか。その『指』である蚯蚓が移動した後には、あたかも元の位置に軟泥が流れ込んだかの如く、ボディスーツの生地が破れているなどの痕跡が全く残っていない。

しかも、更に理解に苦しむことに、スーツ生地の蚯蚓胴体との接合点だけは、ガムの膜が引っ付くかのように癒着し、侵犯者が一度身を引いたのに合わせて引っ張られ、尿道孔周辺にテントを張っているのだった。ゴーストの壁抜けじみた【透過貫通移動】には、抵抗が無い訳では無いらしい。ズズツ、と、蚯蚓が横に動く際に、癒着部位も船の航跡の如

く付き従ってずれていくのだが、その速度は砂を掻き分けるようで重たげだ。

——ヂュジ……ビヂチツ。

その目標は明らかに、気忙しげに喘ぐ小振りな尿道孔だった。真つ暗なテントの内側で、縦裂火口の如きラビアの谷へと頭部が近づいていく。太さはヒメミミズ程度。すらりと細い。先端の口前葉が熱気を発する奥地へ降り立ち、膣前庭にヌラリと粘液を塗りつける。

しゅつ、と怪しげな液体が揮発し、穢れない朱鷺色の粘膜が、悍ましい媚薬成分を吸収させられる化学的な灼熱感に戦慄いた。決して知ってはならぬ危険な快楽の予感。若く瑞々しい湿地帯が動揺し、拒絶に身悶える。ヒクッヒクンツ、と、弾けるような痙攣が、珊瑚を平たく押し潰したようなコーラルピンクの肉苑を劈いた。じんわりと浸透してくる得体の知れない高温の疼きに、悲鳴の波を打たせたことだ。

それを尻目に、虹色の陵辱者は、極細の面相筆で睫毛を描き入れていくが如き小刻みな接吻を繰り返す。そうして初な膣前庭を騁りつつ、目当ての物の位置を探っていく。

……はたして、これは本当に蚯蚓なのだろうか？ 今、その薄皮が先端から、ペろりと蜜柑の皮を放射状に剥くかのように、ゆっくり捲れ、中身の赤く生々しいざらついた舌のような肉質を露わにしたことだ。円錐形の尖端が探查を繰り返し、ついに見つけ出した尿道孔の可憐な縁を、艶やかに、くるり、と、なぞってくるのだった。

「んうっ！」

そこで漸く四肢の拘束から脱したマハ・アディーニは、それまでの不快感を叩きつけ、不屈き者を一気呵成にチャクラムで両断しようとした。

「破廉恥！」

その途端、それまでの緩慢な動きからは想像も出来ない、ひゅつ、とした俊敏な動きで怪蚯蚓が退く。やはり、直前まで『泳いで』いたボディースーツの部分には、痕跡が全く認められなかった。

「おうおう、反抗的で可愛いよう！ 活きのいいのが乗っていて、アチキも嬉しいんだよう！」

【マハとペヂュの詳細が決まっていなかったので、ここまで】